
つまらない話

2M

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

つまらない話

【Nコード】

N5976T

【作者名】

2M

【あらすじ】

大した話じゃありません

第一話

以前小説を投稿していた者ですが、色々あってあちらの続きが書けなくなってしまう、連載不可能となってしまうました。（誰も読んでないけどね）

でもこのままだと個人的に後味が悪いので、自分のこれまでを綴ってみようかと考えています。

まあ割と展開暗いけど、気づいたら大した事じゃなくなってるのでご安心を。

ではまずは私の出生について

今から大体25年前の7月に生まれたのですが、生まれる直前まで、首に臍の緒が巻き付いていたらしいんです。そのことが関係してるかは解らないけど、ネクタイ巻くのはあまり好きじゃないんですね。

当時親は熊本に住んでいて、初出産ということで母の実家の福岡の病院で生まれたのですが、退院してすぐ熊本に移り、一年後には福岡に引越しというドタバタした家庭環境に生まれました。この後も何度も引越しをしてあちらこちらに移ることになりましたして県民性ゼ口の間人間が育つわけです。

ちなみに熊本は父の実家で、実家のほうで男子が生まれず、祖父母にとって初の男の孫であり、親戚一同大盛り上がりだったそうです。本人にしてみれば「知らんがな」なんですけどね。

あと熊本って佐賀以上に何も無いところで、一番でかい建物が『葬儀屋』で次が『パチンコ屋』。家の隣に草一つ生えない奇妙な空き空間があり、駅は当然無人駅。TVで熊本市の映像が流れたとき

「ビルがある！」

で驚きましたもん。

そして看板に書かれたキャッチコピーは

火とフルーツとロマンの町、不知火

もうちょっと纏めようよ。

話がずれたので、今回はここまで。

第二話

福岡↓熊本↓福岡ときて、2歳から6歳までは東京の東大井という所に暮らしてました。幼少期の記憶がはつきりしているのはこの頃からで、小五くらいまでは東京出身だと思っていました。そのせいで、周りから

「もつと九州男児らしくあれ」

と言われても

『違うんだけどなあ』

と心の中で思っていたりしてました。（九州出身〃九州男児っていう発想もどうかと思う）

この頃の私は泣き虫な普通の子供で、生活自体も普通だったと思っています。

毎日のように社宅の庭で遊びまわったりしてましたし、水泳とバイオリンを習っていました。そのせいでアンパンマンをリアルタイムで見れなかった為に幼稚園で話題についていけないという経験もありましたが。

当時の自分にとってのヒーローは、恐竜戦隊ジュウレンジャーと電光超人グリッドマンという戦隊ヒーローで、特にトリケラレンジャーというキャラクターが好きでしたね。前作のジェットマンは見てなかったのですが、幼稚園にヒーローショーが来まして、戦闘員を見て大泣きし別室に隔離されたイタイ思い出しかないという。

今はどちらもDVDが出ていますが、手に入りやすいジュウレンジャーは兎も角として、グリッドマンがオークションで7万円てのはビックリしましたね。どっかで安く売ってないかなあ？

あと、この頃から納得できないことが一つありまして。童謡に親指姫という話があるのですが、流れだけ書くと

- 1：女性が魔法使いから花の種をもらう
- 2：植えた種から花が咲き、小さな女の子が出てくる
- 3：ガマガエルが、子供の嫁にするために女の子をさらう
- 4：池の動物たちが女の子を逃がす
- 5：女の子、コガネムシにさらわれるも捨てられる
- 6：女の子、地ネズミのおばあさんに助けられる
- 7：女の子、モグラと結婚させられそうになるも、ツバメに助けられる

8：女の子、妖精の王子様と結婚し、何時までも幸せに暮らしました
ちよつと待つてください。最初の女性は何処消えたんでしょう。
納得でき無いのがこの部分です。

せめて、この女性の元に帰りたいとか、今は幸せですと報告すると
かあるでしょうに。絶対心配してますよこの人。

明確な解答を得たことはありません。知ってる人、教えてください。

第三話

小2からふたたび福岡で暮らすことになったのですが、その引越しというのが大変でした。一番大変なのは移動でしたね。当時、父親が買ったばかりの車で家族六人・東京→福岡を走り続ける。子供ながらにかなりシンドかったです。昔の旅一座スゲーなとも思う。

この頃の私は特にこれといった特色も無く地味な生活でした。この頃あたりから剣道を始めましたが、目立った変化といえばそれくらいですか。

じゃあお前の特技は何だ？ という事になりますよね。

挙げるとすれば、小さい子供の世話が得意ですね。

物心が付いた頃から、弟の世話や近所の子供の世話をしており、本の読み聞かせや折り紙など、特に折り紙はそこの保母さんにも負けないと自負しています。（さすがにTVに出る人達にはかてないけど）

一時期本気で保育士を目指そうかと考えた時期も在りましたが、母親から

「社会の役に立たない無意味で無駄な特技」

といわれたので断念しました。

もう一つの特技が動物博士ですかね。

だからって千石先生みたいにめちゃくちや詳しいわけじゃないですよ。せいぜい柴田並です。他の家族が動物嫌いなのに私だけ動物好きなもので、好きがたたって色々調べてたらそれなりに詳しくなっ

ただけです。でも動物園とか水族館行くとけっこう活躍できるんですよね。

もつとも、これも母親に言わせれば

「なんでそんなのが好きになるのか理解できません」
だそうです。

じゃあ人生に役立つ特技てなんだろう？

父親曰く

「それくらい常識だろ」

だそうだけど、全然解らない。知ってる人、教えてください。（切実

第四話

実は私は生まれつき視力が悪く、現在は眼鏡を掛けています。それも右目が遠視、左目が乱視という左右バラバラな視力という。特に乱視は相当酷く、裸眼だと20cmより離れると大雑把な色だけ解って全体がぼやけるといいう状況です。

目が悪いことが解ったのは小学校に入ってからで、それまで周囲からは『何度言っても顔を近付けて本を読むおかしな子供』と想われていたそうです。で、学校の視力検査で悪いことが発覚して、病院に行ったら『そのうち失明する』と宣告され、それ以来眼鏡を掛けているというわけです。

この話を周囲にするとあんまり信じてもらえません。若いのに遠視なんてありえない というのが周りの意見です。小学校の席替えて「目の悪い人は前の席」

なんて言いますけど、私の場合は「目が悪いから後ろの席」

にしてくれないとけっこうツライんですよね。特に左右の度が開きすぎてるせいでこの頃はしょっちゅう目が痛くなりました。正直、今でも目が痛くなったり重くなったりすることがあり、頭痛と重なると本気で死にそうになります。

本当はコンタクトレンズのほうがいいらしいんですが、医者や眼鏡屋に言わせると

『瞳が小さくてコンタクトが付けられない』

何だそうです。んなあほなとは思いますが人生で二度、しかも二回目はつい最近、正直へこみますよ。

モデルさんがうらやましい。

あ いや 別に瞳が大きくなりたいわけじゃないですよ。ホントに。

第五話

子供の頃からどうしても許せないことが2つ有ります。

一つ目は、海で起きた事件

奨学4年か5年のとき、大分あたりの海に親戚と共に泳ぎに行ったときです。

当時、ようやく25m泳げるようになった（昔スイミングスクールに行ってたにもかかわらず！）私はどれくらい遠くまで泳げるのか試してみたくなり、沖の方へと泳いで行っただんです。

しばらくして、波が高くなって来たんで引き返そうと思い反転すると、勝手に付いて来て勝手に溺れた弟に顎を殴られ、一緒に溺れてしまいました。

今思っても生死の境を彷徨ったのはあれが最初ですね。近くにいて助けてくれた見ず知らずのお兄さん、ありがとございます。

二つ目が、ゲームの話

当時、私の家では

『ゲームは目が悪くなるから禁止』
ということになってまして、

（注）それ以前に私の目は生まれつき悪いです

どうしても欲しければ5年生になるまで待て、と言われていました。

別にゲームが無かったから怒ってるわけではないですよ。そんな人

沢山いますし。

ただ、私の頃はゲームを持っていないと言っただけで虐められる人も結構いました。

それと比べたら、私は買ってもらえたんですから。

当時買ってもらったのがゲームボーイポケット（赤色）とポケットモンスター赤。今でも手元にあります。

で、問題はここから

私がお慢してようやく買ってもらった次の日、うちの親は

「一人だけ持つてるのは不公平」

として、弟達にも買い与えたんです。

正直「はあ？」ってなりましたよ

私は11年我慢したのに、なんで10年も我慢し取らんヤツが手に入れなきゃならんだ。と思い親に聞いたところ、「うるせえ」しか帰ってきませんでした。

あれ以来皆でゲームをするのが嫌いになりました。

オンラインゲームやモンハンなどはソロプレイしかしてません。個人的に嫌な気分になるんですよね。

第六話

小学4年か5年ごろだったか、当時軽いイジメにあってました。

きっかけはよく判りません。気づいたらそうなっていました。

周囲から悪口を言われ、時々殴られる程度の、それでも当時は嫌で嫌で仕方が無かった。

まず最初に、担任に助けを求めました。

ところが子供というのは今も昔も悪知恵は働くもので、全員が口をそろえて「言ってませーん」なんて言って、当然数が多いから担任もそれを信じてしまい、私は嘘つき呼ばわりですよ。多勢つてのはこういう時好かんのよねえ。

で、次に助けを求めたのが、両親ですね。

ですがこれが最大の間違いでした。

当時、この事を両親に話すときまって

「勉強してれば勝手に無くなる」

としか言われませんでした。

一応言わせてもらつと、当時の私は結構優等生でしたよ。せいぜい漢字が苦手・と言ったくらいですが。

まあそれでも言うつことを聞いておこつと、子供心にそう思ったわけですよ。

ところが

なくなるところか、

「アイツ真面目ぶってるぜ」

なんて言われて、かえってエスカレートするばかり。

教科書投げられるわ、箒で頭叩かれるわ、靴の中に水と砂を入れられるわ e t s

さらに悪いことに、

父親：我慢することが出来ないタイプの人間〃話は聞くけど途中で私に怒鳴って勝手に切り上げる

・
母親：話を聴くことができないタイプの人間〃ろくに聴かずに一方的に意見を押し付ける

・
という奇跡的に外道な両親で、結局解決にならない。

そのくせ弟が虐められたと聞くや

学校に文句を言う+その子の親に文句を言う

と、行動を起こすんですから。益々ワケが判らなくなりましたよ。

一度だけ私を虐めてる子の親の元に行った事があったのですが、その時の言い出しが

「この子がいじめられてるとか勝手に言い出しまして」
でしたからね。

でもこのころの事件はまだ甘かったです。中学はもつと酷かった。そして、ここからが今の私の原点の始まりになるんです。

正直暗くなる話ですが、読んでるうちに慣れきっちゃって最後のほうは「こんなもんか」と思うだろうし、それ以前に読んでる人が少ないからたいした問題にはならないしね。

第七話

とりあえずは、そこに至る顛末から。

お話したとおり、私自身は引越しがそれなりに多くあちこちに行っているわけですが、小学校卒業間近で決まった引越し先は海外でした。

ええそうです海外です。東南アジア、タイ国です。

たしか決まったのが10月ごろ、12月に一度遊びに行つて、3月に引越し　という流れでした。

それまで海外生活はおるか海外旅行の経験すらなかったので、最初言われてもイメージすら湧きませんでした。正直なところ、“期待”や“不安”よりも“忌諱”のほうが強かったです。早い話、行きたくありませんでしたよ。

なので最初は自分だけ親戚の家に転がり込む、という話もあったのですが、どうも親が勝手に飛行機のチケットを取ったらしく「キャンセルはもつたいないから」

とかいう理由で結局連れて行かれることに。

ホント親つてのはロクな事しない

タイに着いたときの感想は暑いというよりも変に温い感じでした。変な感じでしたね。

これが第一歩。

「一方通行の地獄道」というヤツ・・・なのかな？まあそうなるわけだけど。

第八話

当時が雨季だったか乾季だったか、3月4月が一番暑いのでタイの学校は春休みが一番長いんですよ。

当然、始業式が遅ければ入学式も遅い。

その年に中一になる私は第三人よりも一日遅れで学校に入りました。4月の終わり頃です。

泰日協会学校中学部

タイ国日本人学校のほうがいいのかなあ？校歌でもそう歌ってたし。

通学はバスがあつてそれに乗れば良かったんですけど、着いてからまず最初に迷いました。

ええ迷いましたとも

バス降りてから校舎に入ればいいのですが、自分以外の中学生（小学部から上がったヤツや既に在学してるヤツ）が三方向に分かれて散らばっちゃうんです。

「誰かについていけば何とかなる」

なんて言われても

「誰についていけばいいのかわかんねえ」

という状況になってしまった。つまり、のっけから躓いた・というわけ

しばらく悩んだ挙句（同じ状況に陥ったヤツがもう一人いました）とりあえず近くの階段を上がって何とか教室に辿り着きました。

1年3組　それが私の教室でした。

あとはたぶん他の学校と一緒にですね。入学式に出て、長い話を聴い

て、写真とって解散。

大雑把に言うとそんな流れです。

（帰りもバスです）

しいて文句を上げるなら、胸に花を付けて式に出たんですが、
あの花、変にベタベタするんですよえ。

第九話

私自身の記憶力はあまりよろしくは無く、この頃の記憶も抜け落ちて
るものがほとんどなので、時系列がしつちやかめつちかになっ
てしまうと思います。読んでて訳が解らなくなったらゴメンナサイ
ね。

とりあえず学校の話から

そもそも日本にある学校ではないので、制服の類を用意してくれる
業者と学校が契約のようなものをしておらず、制服は

- ・ 半袖のYシャツに黒の長ズボン
体操服になると

- ・ 白で動きやすい服装

水着に至っては

- ・ 常識の範囲内では自由

拳句校訓だかモットーだかは解りませんが、当時掲げていたものが
「自由のないとこ自立なし」

あんまりいい響きはしないですね。

登下校はバス＋一部自家用車で、小学部と中学部の帰宅時間を合わ
せるため（おそらくコストダウン）小中ともに授業時間は45分
でした。

あんまり良いもんじゃないですよ。帰ったって何処にも行けないし
・

授業は週一でタイ語と水泳があるくらいであとは日本の中学校と同
じ・・・なのかな？ 日本の中学校行ったこと無いから解らないけ

ど。

ただ問題が一つ。

学校の授業に英会話があつたのですが、小学部の頃から学校にいたヤツらは普通にできるのに対して、日本の公立小学校でせいぜいローマ字かける程度の私は付いていけるか ということ

ムリ

に決まっています（今の小学生だったらどうなるんだろう？英語習うのかな）。

なのに向こうはできること前提で喋繰りまくるので45分間日本語無のアルファベットスタディという授業内容でした。

講師のイギリス人が言ってる言葉を理解できるようになるまで丸々3年かかりましたよ。

そんなこんなで、今でも英語は苦手です。

（言ってることは理解できるが同じ言葉で返せないから）

第十話

テレビとか見てると学生生活には失敗談というのが付き物なのかな？
というだけの理由で失敗談をいくつか。

と言ったものの、話題に出来るようならくなく失敗談ってあんまり無いのが困りもの。

せいぜい

『英語の授業で20と12を言い間違えた』

とか

『学校への要望で頼珍漢なコトを言って叱られた』
といったものしかないんですよ。話せるものが。

なので、周囲から小ばかにされた話を一つ。

日本よりは湿度が低く、じっとりした暑さこそ少ないもののそこは東南アジア、やっぱり暑いときは暑い。なのでベランダの窓とかを網戸だけにして開けっ放しにしておくことがほとんどです。山岳地帯とかでもせいぜい雨どいがあるくらいですね。（さすがに高床式の家は見ませんでしたか・・・見る機会が無かっただけかな？）

その日は家族全員出かけていて、一人で留守番していました。
居間で本読んでたとき、急に突風が吹き荒れて、網戸が外れてバーンと倒れてしまった。

慌てて付け直そうとしても、風が強くて付ける前に飛ばされてしま

う。なので取り付けられない。
なので、大の字になって全身で網戸を支える状況になってしまいました。

数分くらいで風は一旦止むんですが、作りが雑なのかなかなかサッシにはまらず、しばらくしたらまた突風が吹いてくる有様なのであきらめて支え続ける。

そんなときに限って家族の帰宅は遅く、2時間ほど支え続けました。

で、家族が帰ってきた時、状況を知って母親が言った第一声が「窓閉めればよかったのに。バカねえ。」

そのあと父親が

「ちよつと考えたらわかるだろ。」

弟からは

「だせえ」「変なヤツ」

と、家族全員に笑われる始末。

以上 失敗談でした。

第十一話

最初の始まりは、私の髪型のクセから

“最初”と付けたのは、後でどんどん理由が増えるからです。

旋毛が原因なのかは知りませんが、私の髪の毛は立ちやすいとか跳ねやすいとか放っておくと変な方向にクセがついてしまうんです。

最初は寝癖かと思ったんですが、どうにも違ったみたいで

で、さすがに見つとも無いので登校前に水を被るなど手入れはするんですが、時々時間がないと完全に直らず跳ねたまんま学校に行かなければならなくなってしまっことも。

まあそんな髪型を見て

「寝癖ついてるよ」

とか

「毛が立ってるよ」

とかは全然いいんです。

どっかのだれかが

「頭が爆発してる」

と言ったのが問題の始まり。

それだけなら気にすることも無いが、

「頭の中爆発したんじゃないね」

「頭の中スカス力だろ」

「ブサイクなのもそのせいだよ」

「きつとキモい事しか考えてねーぜ。中身が無いんだから」

などと訳の解らない変な方向に発展していきついたあだ名が

『ボンバーヘッド』

明らかに侮辱前提のあだ名だったうえにどんどんエスカレート

・爆発して中身が無いから「脳なし」↓「種無し」とかけて

『パイナップル』 『パイナポー』

・中身が吹き飛んで腐ってるから

『生ゴミ』

・一度に二つくっつけて

『パイナップルボンバーヘッド』

・少し言いやすくして

『パイナップルボンバヘー』

・拳句全部くっつけて

『パイナップルボンバー生ゴミ』

いくら言っても止めてくれず、親に言っても前に書いたことを言われるばかり。

こうなったら教師しかいねえ と思い相談。

一応説教してくれて、担任が見てる前で彼ら（彼女ら）は二度としないことを約束してくれました。

ところがその二三日後、アントニオ猪木の応援をもじって

「（私の名前）ボンバーヘッド」

と、休み時間の教室前のフロアで10人くらいが横一列で大声で熱唱。

そしてそれを見て、手を叩いて笑いながら私を指差すギャラリィ。

その日の夜中。私は台所の前で手首を切ろうと包丁を握ってしました。
怖くなって出来なかったけど。

こういうのってブログとかで書いたほうがいいんですかねえ。
付け方知らんけど。

第十二話

こういうのを書いていると「どの程度までなら書けるのか」というのが判らなかつたりします。

書くだけの内容はあるんですけど、書いていい限度の限界がわかりにくいんですよ。

以前千葉のほうで働いていた時（現在は福岡在住）上司の皆さんに言われたことが

「話の内容が暗い」

と言われたことがあります、それでも一応内容を選んだつもりだったんですよ。

なのでそれ以降は

「そりゃお前が悪いよ」

とか

「皆そういうもんよ」

という答えが返ってくる内容の話をするようにしていましたから。

正直な所、内容無視して箇条書きでおk とかいうのであればそれで良いんですけど、それを読んで2・3日気分を害されるのは本位ではないので。

実際に上記の実例があるので。

あ、でも、中学の知り合いとかは別に気分を害しても構いませんよ。というか惨たらしく死んでください。

選
び
な
が
ら
書
い
て
い
く
と
し
ま
し
ょ
う
か。
言
葉
を
選
び、
場
面
を
選
び。

第十三話

一年の頃は、数の暴力というのが大嫌いでした。
非人道的な事でも多数が支持すれば正しくなってしまう。

クラスメイトに生ゴミと呼ばれ

その事に文句を言ったらクラス中からの土下座コール
しょうがないので従ったら頭を踏まれる

昼休みあけに教室に戻ると、鞆は屑籠の中、水筒は中身を捨てられる
誰がやったのかを聞くとサッカーボールが後頭部にぶつけられる
その瞬間クラスが大喝采

さすがに二年・三年と経つことに我慢できるようにはなりましてたけ
ど、当時は感情が爆発することが多かったですね。

でもそれ以上に教師が嫌いでした。

一年のときの担任は何と言うか、熱血教師？のような人でした。
生徒が問題を起こせば体当たりでぶつかっていく、という感じ、か
な？学園ドラマは見ないので知らんけど
（金八先生はロン毛のオッサンが学生に集団リンチされるコントだ
と思っていました）

当時のイジメ（周囲は否定）のことについても一度か二度相談した
事があります。

解決には成りませんでしたけど・・・

日本が秋ぐらいのことでしたか

その日、我慢が限界に達しようかといった事件がありました。

普段から

「人が困ってたら助けてあげなさい」

と親だの道德の授業だので言われていた私は、その日、飛ばされた手紙を拾ったんですよ。

その時、落としたと思われる女子が

「アンタは拾わないでよ キモい」

などと叫んだせいで周囲から私に『泥棒コール』が浴びせられたんです。

その時の怒りは激しく、昼食の時ずっとムシャクシャしてたんです。それを見た担任が聞いてきたので、私はもう人助けはしたくないと言ったんです。

すると側に呼び出され、困ってる人を助けないのは人として間違ってる、などと説教を始めてきまして、それを見ている上記の連中がクスクス笑うんですよ。

なので聞いてみました

人を傷付けるのは駄目で人に傷付けられるのはいいのかと。

そのときの解答が

「なんだよ、まるで虐められているみたいに」

その時、こう思いました

この程度はイジメに入らないのか、と。
どの段階でイジメというのか、と。

あれ以降、色々調べてみたのですが、日本における虐めの定義というのはい

うのは

- 1・自殺者が出る

- 2・マスコミが扱う

の何れかを満たさないといけないようですね。
ですが、当時の私は、そのことを理解できなかった。

子供でしたから

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5976t/>

つまらない話

2011年11月14日01時08分発行